

A horizontal banner featuring a close-up of several pink, spiky flowers, possibly from a species like Echinops, set against a soft, out-of-focus blue background. The flowers are the central focus, with their numerous fine petals creating a textured, starburst effect. The overall aesthetic is clean and natural.

高山右近ゆかりの地でリコーダー演奏



どこへ行くにもリコーダー

リコーダー。たて笛。日本全国の小中学生が、音楽の時間に吹いている、ごくごく普通の、身近な楽器ですが、義務教育を終えると、どこかにしまわれてしまうか、処分されてしまう、かわいそうな楽器です。子ども達には、たて笛は、楽器だったのではなく、勉強道具だったのでしょ。

でも、リコーダー（たて笛）。右近さんを歌った曲や、童謡・唱歌・演歌・・・そして、賛美歌によく合うんですよ。

どこへ行くにも、バッグにちょっと入れておいて、右近ゆかりのあちこちの場所で、吹かせていただいているんですよ。



高山右近受洗之地

毎年、5月5日にもたれています「右近こどもまつり」には、ほぼ毎回、出かけていています。

正面の山が、沢城のあった城山（538m）で、少年彦五郎はここで洗礼を受けました。高山ジュスト彦五郎の誕生です。

こいのぼりが見えている所が、「右近こどもまつり」の会場です。芳野川（ほうのがわ）の土手で、リコーダーを吹いています。妻が写真をとってくれました。



大門宅

「右近こどもまつり」に出かけましたら、この地で右近のことをよく研究してくださった大門（だいもん）貞夫さん（故人）のお宅を伺わせていただいています。

応接間には、愛久澤勇・作の「吉利支丹高山右近と関白秀吉の対決」（高さ180cm、幅90cm、一对）の、りっぱな木版画の屏風が飾られています。

高山家の家紋は「七つ星」（七曜星）ですが、八つや九つ星になっているようです。



芥川城

毎年、5月のゴールデン・ウィークには、私たち夫婦は、お弁当とリコーダーをもって、新緑が美しい「芥川城址」に出かけていくことにしています。近くの芥川・摂津峡の公園は人がいっぱいですが、対岸のこの場所は、人と会うことはまれで、右近ゆかりのこの場所を「二人占め」にすることができるんですよ。



玉造・聖マリア大聖堂

聖堂の入口の左右に建てられている高山右近と細川ガラシアさんの像に迎えられて、中に入りますと、更に正面に2つずつの高山右近と細川ガラシアの画像があります。

聖堂のステンドグラスを通してさしこんでくる光の中で、丁度、「右近召天日」(2007.2.3)に、「ユスト高山右近を讃う」(河合まり子・詩、鈴木和之・曲)と「祈りの生涯」(山縣実・作)の2曲を吹かせていただきました。



金沢・カトリック三馬教会

「高山右近」（北國新聞社・発行）の「コラム」のコーナーで、モザイク画の「高山右近」が用いられていましたが、その教会へ、山縣実牧師（殉愛キリスト教会）に案内していただきました。

カトリック教会は、礼拝堂の入口の扉を開けてくださっていますので、自由に入ってお祈りすることができます。この時は、他にどなたもおられませんので、リコーダーで賛美をささげさせていただきました。



大阪・崇禅寺の「細川玉子之墓」

細川ガラシアはキリシタン（クリスチャン）でしたから、勿論、ここにおられるわけではありません。まさに「わたしのお墓の前で泣かないでください。

そこに私はいません。・・・」（「千の風になって」）ですよネ。でも、400年前の高山右近や細川ガラシア、そして多くのキリシタン達を身近に覚え、一体感を感じることができるんですよ。



高山右近研究室・久保田

高山右近さんにとっては、茶室が、静まってデウス（主なる神）と親しく交わる場所、祈りの場所だったようです。私には「高山右近研究室・久保田」が、その場所。

「高山右近さんに与えられた信仰と祝福を、現代の高槻の地で継承させてください。」と祈っています。



大阪クリスチャンセンター

大阪・玉造にある「大阪クリスチャンセンター」(OCC)でもたれた「OCCまつり」に、「高山右近研究室・久保田」も、出店しました。拓本、紙芝居、「高山右近の生涯」の写真額など。

こういう機会がなければお会いできなかった方々にも出会えて、感謝でした。



フィリピン・ケソン市ノバリチェスにある
イエズス会の修道院の納骨堂（クリプト）

ノバリチェス 笛に答えて 風涼し
右近さんの遺骨は、このクリプトの中にあるのでしょうか。勿論、右近さん自身は、今は天国（パライゾ）におられるわけで、ここにおられるわけではありません。

いつか、私も天国に招き入れられた時、一番お会いしたいのは、右近さんやガラシアさん達なんですよ。



マニラ湾

2006.4.21~24 「高山右近のマニラでの足跡を訪ねる旅」右近ゆかりの場所、すべてを巡り終えた最終の日(24日)の朝、ホテルから遠くないマニラ湾に散歩に出かけました。マニラ湾を前に、リコーダーで吹いた「荒城の月」は格別でした。

右近さん達も、はるか彼方の地となった日本のために、日々祈ったことでしょう。



京都・鴨川 六条河原「元和キリシタン殉教の地」

江戸時代、「元和(な)の大殉教」といわれる三大殉教が、京都(1619年、52人)・長崎(1622年、55人)・江戸(1623年、50人)の地でなされました。

京都では、橋本太兵衛の家族他52人が、27本の十字架にくくりつけられ、火刑で、生命奪われ、天国に召されていきました。



小豆島の「高山右近像」

「5つの同じ右近像」（西森正昭・作）ですが、教会の敷地内に建てられているのは、小豆島だけです。台座が低めに造られていますので、高山右近さんが身近に感じられ、親しみを覚えます。

高山右近は、その信仰や生き方によって、400年後の、現代に生きる私たちに、今なお語っておられます。



小豆島・高山右近潜伏の地

秀吉によって「吉利支丹伴天連追放令」が出され（1587年）、高山右近は、小西行長の領地の小豆島に身を潜めました。

その場所を、小豆島新聞社の藤井豊社長がつきとめてくださり、碑を建てていただきました。池田町奥中山の「上屋敷」といわれる所で、谷あいを「殿川」が流れていますよ。